

令和 4 年度 文化財防災訓練等実施状況報告

市町名

米原市

行事名称 第 69 回 文化財防火デーに伴う火災防ぎょ訓練

実施期間・日時 令和 5 年 1 月 21 日（土）午前 9 時 30 分から午前 10 時 7 分

実施場所 伊富貴山観音寺（米原市朝日 1342 番地）

主催者 湖北地域消防本部米原消防署

■実施内容

訓練の想定

午前 9 時 30 分頃、登山者の火の不始末により国指定重要文化財観音寺本堂西側の山林から出火、火勢が強く本堂へ燃え移る可能性が高い。初期消火を実施するも火勢は弱まることなく延焼拡大していくため、備え付けている放水銃のほか、地元消防団、消防署による放水を想定。

訓練の内容

観音寺関係者による火災発見、通報、初期消火（消火器、放水銃）、文化財の搬出。
消防署、消防団による放水訓練を実施。

参加者及び役割分担

観音寺関係者 住職・門徒	3 人：火災発見、初期消火（消火器）、文化財の搬出。
朝日自治会	2 人：初期消火（放水銃）。
米原市防災危機管理課	3 人：ドローン撮影、消防団事務局としての記録。
米原市消防団（山東方面朝日班）	9 人：放水訓練。
湖北地域消防本部 米原消防署	6 人：全体統括、放水訓練、講評。
米原市教育委員会	2 人：あいさつ（教育長）。現場立会（視閲）、記録。

特に工夫した点

ドローンを活用した、市防災危機管理課による上空からの俯瞰的な災害状況の確認と情報提供。

問題点・課題

地区住民の訓練参加者の減少。

その他

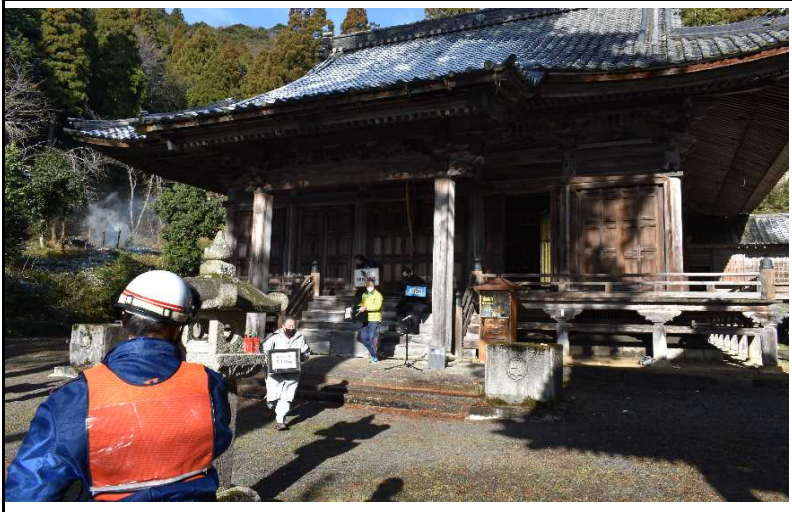
継続して実施することが重要。

訓練風景

別紙参照

現地確認写真(2023/01/21) 観音寺防火訓練

写真①



出火の確認・文化財搬出

出火の確認(本堂左側に見える煙)
→観音寺関係者による文化財搬出
作業

写真②



消火器による初期消火

観音寺関係者による、火点への初
期消火

写真③



放水銃による初期消火

朝日自治会住民による、観音寺に
備え付けている放水銃を用いた初
期消火

写真④



消防署・消防団による放水訓練

手前:米原市消防団
奥:米原消防署

写真⑤



放水全景

消防署、消防団および朝日自治会
住民による放水銃を用いた放水訓練

写真⑥



訓練終了後整列

令和4年度 文化財防災訓練等実施状況報告

市町名

栗東市

行 事 名 称	令和4年度 第69回文化財防火訓練
実施期間・日時	令和5年1月22日（日） 午前8時30分～午前9時30分
実 施 場 所	小槻大社（栗東市下戸山1200番地）付近一帯
主 催 者	栗東市、栗東市教育委員会、湖南広域消防局中消防署

■実施内容

訓練の想定

小槻大社西側の杜から火災らしき白煙を宮司が発見し、直ちに初期消火等の初動活動を試みるも、折りからの風に煽られ火勢は延焼拡大の様相を呈していると想定。

訓練の内容

火災を発見した宮司が、自動火災報知設備の発報及び119番通報を行う。駆け付けた氏子・地元自治会により、水消火器による初期消火活動と重要物品の搬出を行うも、火勢は延焼拡大の様相を呈した。

栗東市消防団は、小型ポンプ及び中水槽により中継送水を実施して放水体形確立し、本殿西側の杜をジェットシューターにて火災防御活動を行う。本殿に延焼の危険があることから、氏子・地元自治会により、易操作性消火栓及び自動首振り放水銃による本殿の火災防御活動を実施する。

参加者及び役割分担

小槻大社宮司（1名）：119番通報・初期消火や文化財搬出を指示。

氏子・地元自治会員（15名）：初期消火活動・自動首振り放水銃の操作。易操作性消火栓による消火活動。

栗東市消防団（22名）：中継送水・放水訓練・交通整理

中消防署（8名）：全体統括、放水訓練、自動首振り放水銃の指導

栗東市（6名）：現場立会い

栗東市教育委員会（6名）：全体統括、現場立会い

特に工夫した点

文化財に密着している氏子や周辺の自治会員を中心に、新たに設置した自動首振り放水銃や易操作性消火栓を用いた消火活動を実施した。

文化財防災訓練はコロナ禍で2年間実施できなかったが、境内だけでなく離れた地点にある溜池などから中継送水を行うなど、市消防団に広範囲かつ実践的な活動を実施してもらった。

問題点・課題

コロナ禍の影響で3年ぶりの訓練実施となったが、大きな問題は発生しなかった。

ただ、中継送水に若干の遅れが生じる場面があり、訓練の練度が課題として残る。

その他

文化財防災の周知・啓発のために、栗東市内の学区の持ち回りで、引き続き訓練を実施していく。

訓練風景



令和4年度 文化財防災訓練等実施状況報告

市町名
東近江市

行 事 名 称	第 69 回文化財防火デーに伴う消防訓練
実施期間・日時	令和5年1月21日（土）午前8時30分から9時30分まで
実 施 場 所	東近江市蒲生岡本町 185 番地 黄檗宗天龍山 梵釈寺
主 催 者	東近江行政組合 日野消防署

■実施内容

訓練の想定

本堂の石油ストーブ付近から出火、周囲へ延焼拡大する。寺院関係者による 119 番通報と文化財の搬出、初期消火を行う。初期消火中に 1 名が煙に巻かれて逃げ遅れる。

訓練の内容

寺院：適切な 119 番通報、文化財の搬出、初期消火の実施。寺院の代表者は状況を把握し、到着した消防隊へ逃げ遅れ情報を報告する。

消防署：迅速な人命救助と消火活動。消防団との連携。

参加者及び役割分担

梵釈寺関係者	2 名	119 番通報、消防隊への状況報告
地元関係者	10 名	文化財搬出及び初期消火
東近江行政組合日野消防署	10 名	放水訓練（水幕展開）
東近江消防団員	10 名程度	放水訓練
東近江市文化スポーツ部歴史文化振興課	2 名	現場立会い

特に工夫した点

水幕展開によって延焼防止を図った。

多くの地元関係者に参加してもらい、意識の向上を図った。

問題点・課題

消防団員が不慣れであったためか、放水までに時間がかかった。

今回は地元関係者が文化財の搬出や初期消火を行ったが、地震等で広範囲に被害が出た場合に初動体制がとれるかが課題である。

その他

継続して訓練を行うことにより、寺院・地元関係者に防火への意識を持ち続けてもらうことが重要である。

訓練風景



文化財の搬出



消防隊及び消防団による放水